

平成30年12月

久家純子 学位論文審査要旨

主査 片岡英幸
副主査 松浦達也
同 竹内裕美

主論文

Usefulness of high-resolution 3D multi-sequences for peripheral facial palsy:
differentiation between Bell's palsy and Ramsay Hunt syndrome

(末梢性顔面神経麻痺における複数の高解像度3Dシーケンスの有用性：Bell麻痺と
Ramsay Hunt症候群との鑑別)

(著者：久家純子、久家圭太、篠原祐樹、國本泰臣、矢間敬章、小川敏英、竹内裕美)

平成29年 Otolology & Neurotology 38巻 1523頁～1527頁

参考論文

1. Sequential motion of the ossicular chain measured by laser doppler vibrometry
(レーザードップラー振動計で測定された耳小骨連鎖の連続運動)

(著者：國本泰臣、長谷川賢作、有井士郎、片岡英幸、矢間敬章、久家純子、藤原和典、
竹内裕美)

平成29年 Acta Oto-Laryngologica 137巻 1233頁～1237頁

審査結果の要旨

本研究は3D-MRIを使用し、通常のT1WIでは検出できないような軽微な蛋白濃度の上昇や造影効果を検出することにより、Bell麻痺とRamsay Hunt症候群の鑑別が可能かどうか検討したものである。その結果、3D-FLAIR/CE-3D-FLAIR・CE-3D-T1WIにおける内耳道沿の高信号/造影効果、CE-3D-FLAIRにおける内耳神経の造影効果、造影前後の3D-FLAIRにおける内耳の高信号、3D-CISSにおける内耳道底部の顔面神経の腫大の各種所見が両者の鑑別に有用であることが判明した。本論文の内容は、Bell麻痺とRamsay Hunt症候群の鑑別における3D-MRIの有用性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。